

通学時の交通事故の特性と対策

—通学路の交通安全の確保に関する有識者懇談会のための資料—

公益財団法人 交通事故総合分析センター
常務理事 博士（工学） 山田 晴利

発表の内容

- ▶ 交通事故総合分析センター（ITARDA）の役割
- ▶ 通学時の交通事故の特性
 - ▶ 集計の前提条件
 - ▶ 全体的な発生状況と時系列的な変動
 - ▶ 通学時の事故特性
 - ▶ 月別，曜日別，時間帯別の事故
 - ▶ 危険認知速度，車道幅員と傷害の程度
 - ▶ 法令違反別，道路形状別
 - ▶ 自宅からの距離別の事故
- ▶ 事故の特性から見た対策

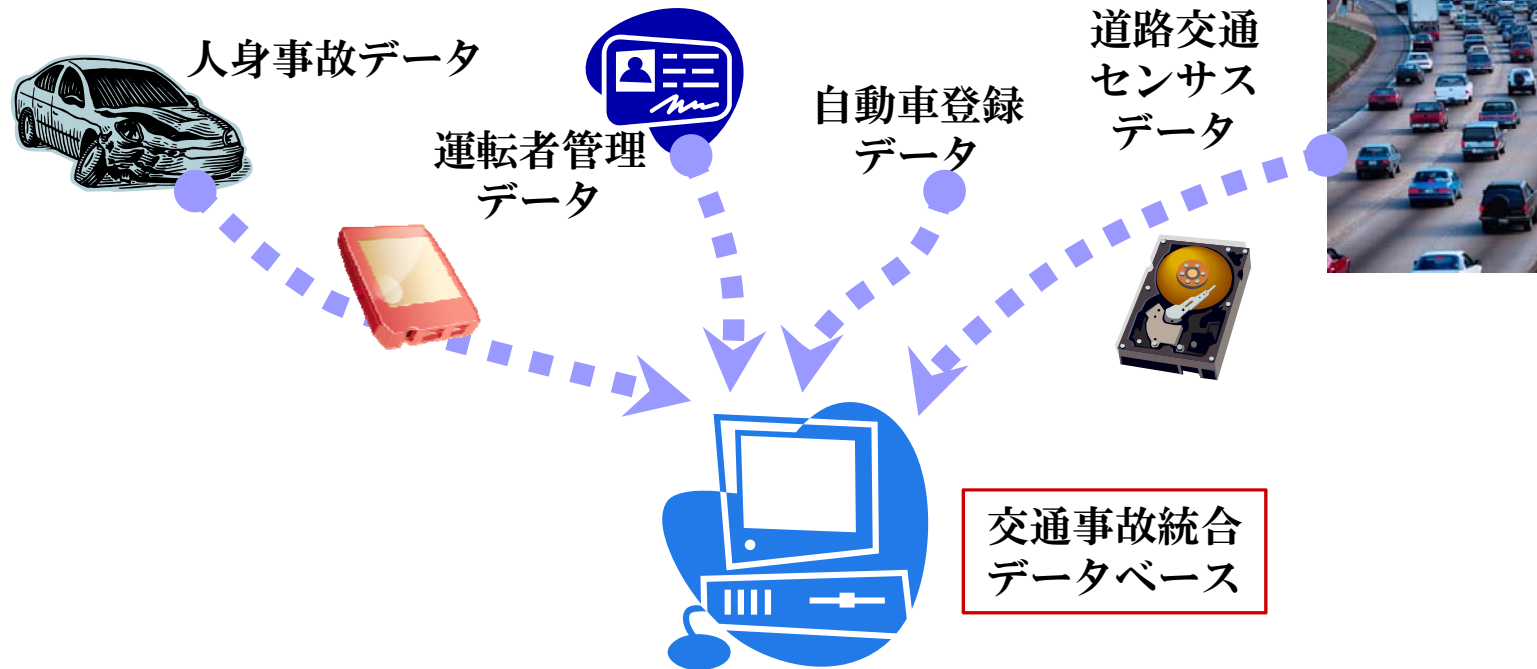
交通事故総合分析センターの役割

- ▶ 1992（平成4）年3月に設立
- ▶ 同年6月：道路交通法第6章の3の「交通事故調査分析センター」として指定を受ける
 - ➔ 本指定により，警察庁，都道府県警察，警察から（交通事故データ，運転者管理データを含む）情報の提供を受けるとともに，秘密保持等の義務を負う
- ▶ 2012（平成24）年4月：公益財団法人に移行

道路交通法第108条の13 国家公安委員会は，交通事故の防止及び交通事故による被害の軽減に資するための調査研究等を行うことにより道路における交通の安全と円滑に寄与することを目的とする一般社団法人又は一般財団法人であって，次条に規定する事業を適正且つ確実に行うことができると認められるものを，その申出により，全国に一を限って，交通事故調査分析センターとして指定することができる。

交通事故総合分析センターの役割 (2)

- ▶ 交通事故と「人」「道」「車」に関する情報の収集と分析，成果の提供



- ▶ 交通事故の原因の科学的な究明のための「交通事故例調査」 (ミクロ調査)

交通事故総合分析センターの役割 (3)

- ▶ センターのウェブサイトから交通事故に関する各種の分析成果を提供 (<http://www.itarda.or.jp/>)
 - ▶ 交通事故統計年報
 - ▶ 交通事故統計表データ
 - ▶ 都道府県別，道路形状・線形別，事故類型別，法令違反別等さまざまなデータを提供
 - ▶ 研究報告書
 - ▶ 交通安全教育に役立つ高齢歩行者事故の分析
 - ▶ 交通安全教育に役立つ自転車事故分析
 - ▶ 暴露情報としての四輪運転者年齢層別年間走行距離の推定 等
 - ▶ イタルダ・インフォメーション
 - ▶ 後席乗員がシートベルトを着用していなかった事故の特徴
 - ▶ 車に人を乗せるときは，こんなことにも注意を 等

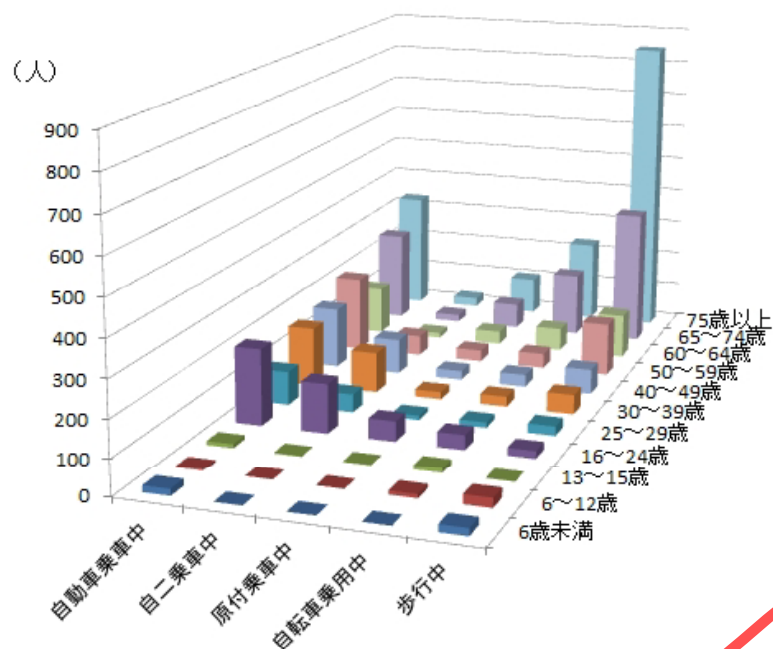
通学時の事故の特性

▶ 集計の前提条件

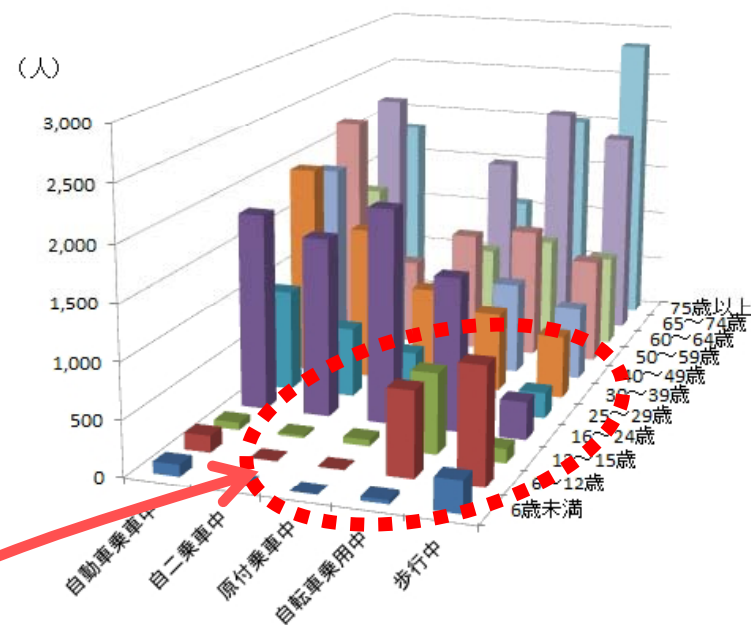
- ▶ 「通学路」という道路区分は事故原票に存在しないため、通行目的が「**通学**」と「**下校**」の事故を抽出し、さらに当事者の年齢について、小学生相当（6歳～12歳）、中学生相当（13歳～15歳）を指定
- ▶ 事故類型として「人対車両事故」と「自転車対車両」事故を抽出
- ▶ これらの事故を主な対象として、以下の分析を実施した：
 - ▶ 死亡・重傷・軽傷者数
 - ▶ 月別，曜日別，時間帯別
 - ▶ 危険認知速度および車道幅員との関係
 - ▶ 当事者の法令違反別，道路形状別
 - ▶ 自宅からの距離別

事故の全体像－状態別年齢階層別（H22年）

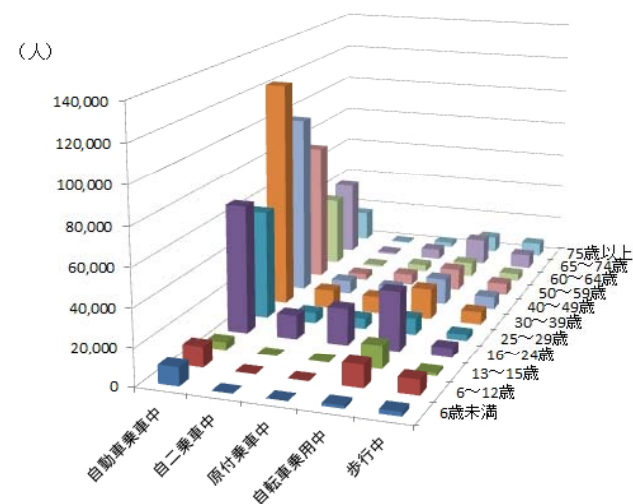
死者数



重傷者数

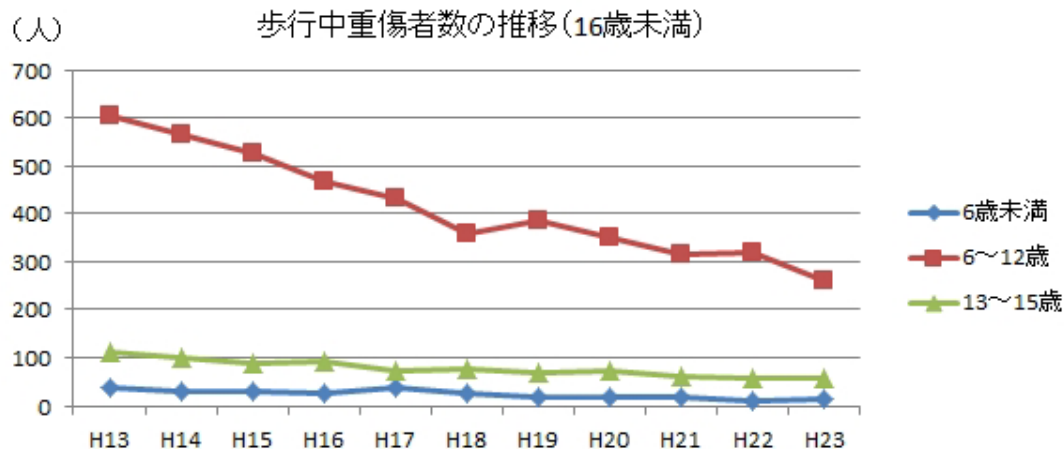
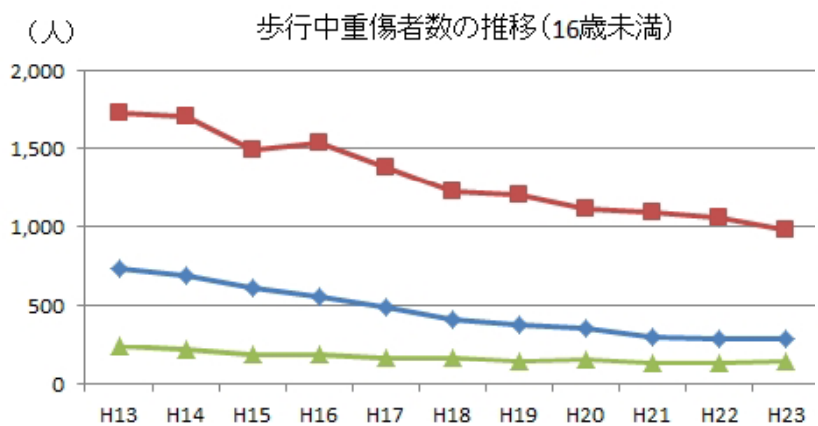
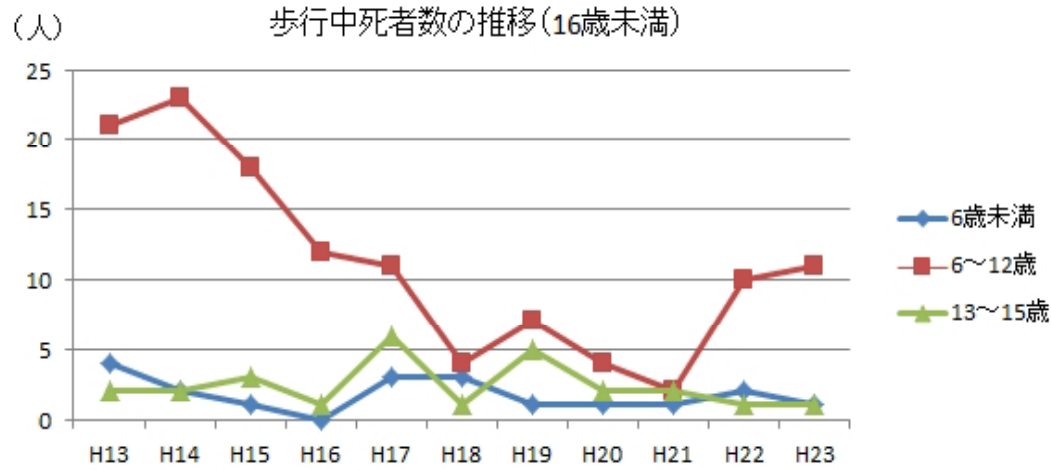
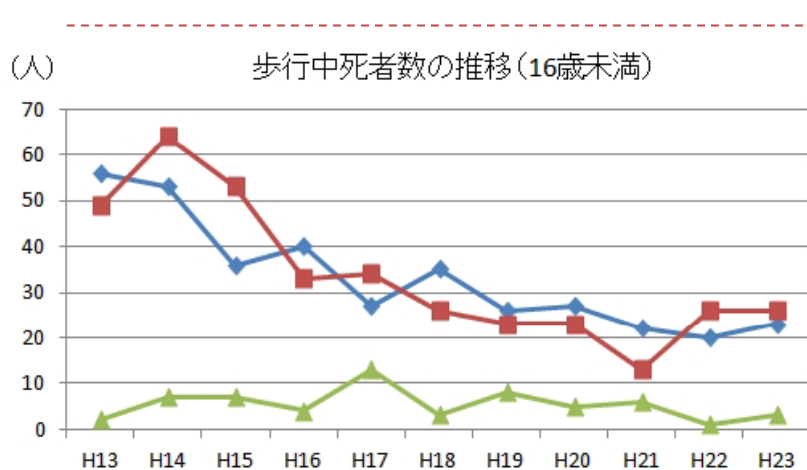


軽傷者数



- 6歳～12歳では「歩行中」「自転車乗用中」の重傷者数の割合が高い
（歩行中の重傷者数は1,052人，自転車乗用中の重傷者数は770人；H22年）
- 本グラフは，全通行目的を対象としている

事故の全体像－状態別年齢階層別（歩行中：時系列）



通行目的：全目的



通行目的：登校・下校に限定

事故の全体像－状態別年齢階層別（時系列）

- ▶ 6歳～12歳の年齢層では「歩行中」「自転車乗用中」の重傷者数の割合が高い
- ▶ 「歩行中」の死者数、重傷者数を総体的にみると時系列的には減少傾向にある
- ▶ ただし6歳～12歳の歩行中の死者数は、全目的、登校・下校目的のいずれでも近年増加している
- ▶ 「登校・下校目的で歩行中」の死者が「全目的の歩行中死者」に占める割合は、平成22年には38%、平成23年には42%であった（6歳～12歳）

参考

▶ 通行目的の分類

▶ 業務

- ▶ 職業運転
- ▶ 業務目的

▶ 通勤

- ▶ 出勤
- ▶ 退勤

▶ 通学（園）等

- ▶ 登校
- ▶ 学業中
- ▶ 下校

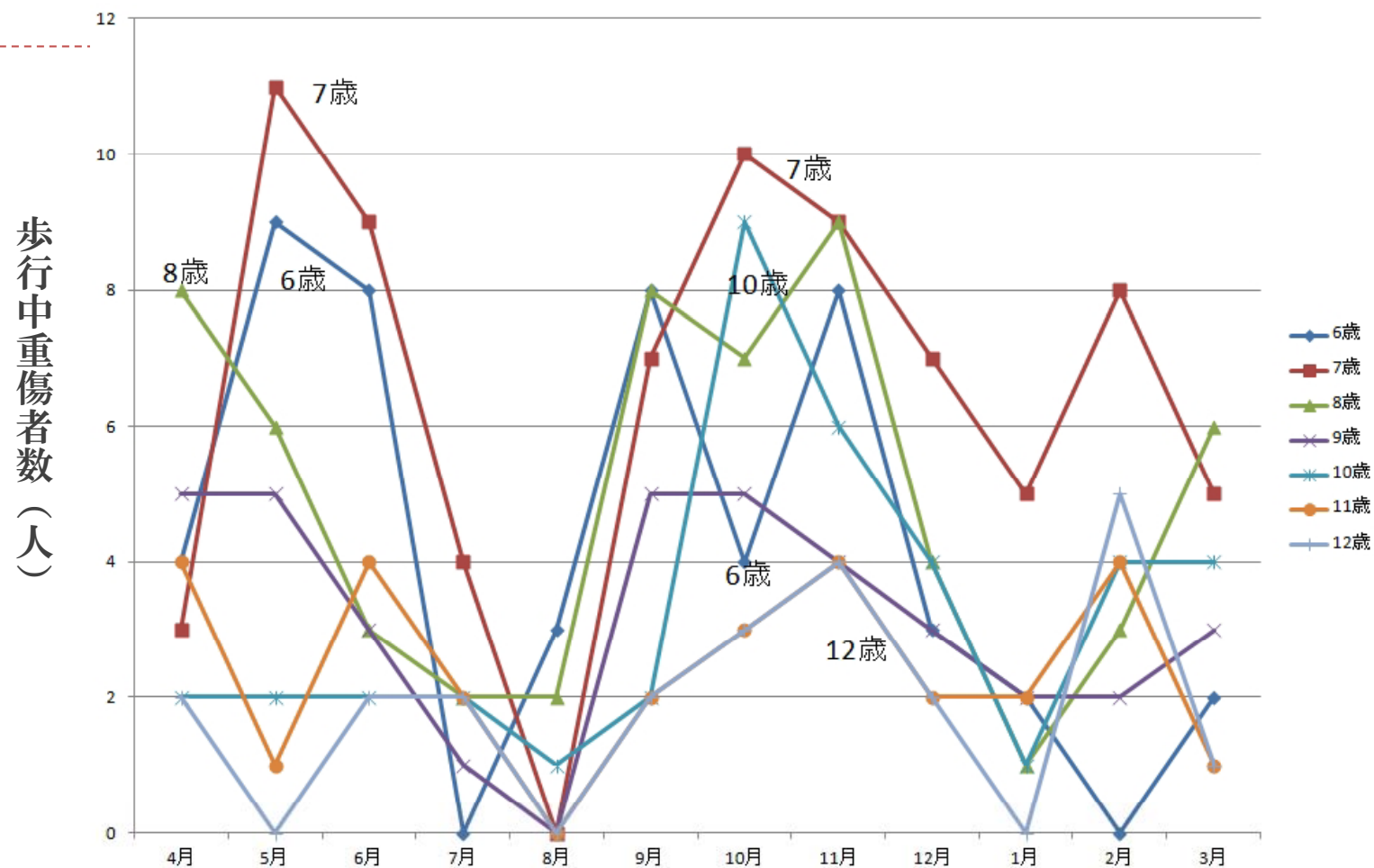
▶ 私用

- ▶ 観光・娯楽
- ▶ ドライブ
- ▶ 散歩（自転車含む）
- ▶ 飲食
- ▶ 買物
- ▶ 訪問
- ▶ 送迎
- ▶ 通院
- ▶ 帰省
- ▶ 遊戯 など

▶ 調査不能

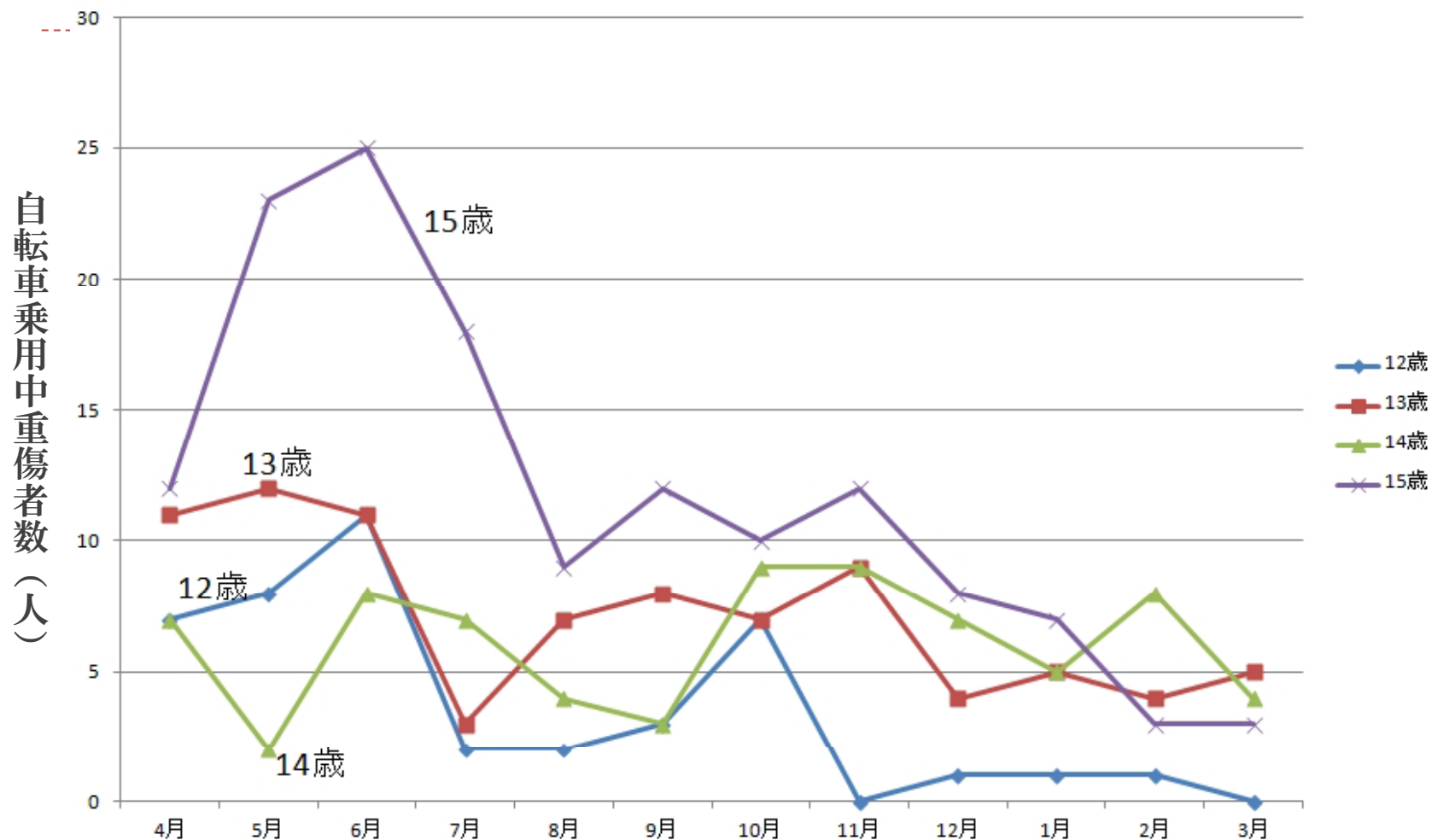
この二つの目的を抽出

月別変動（H22，歩行中重傷者数，登校・下校目的）



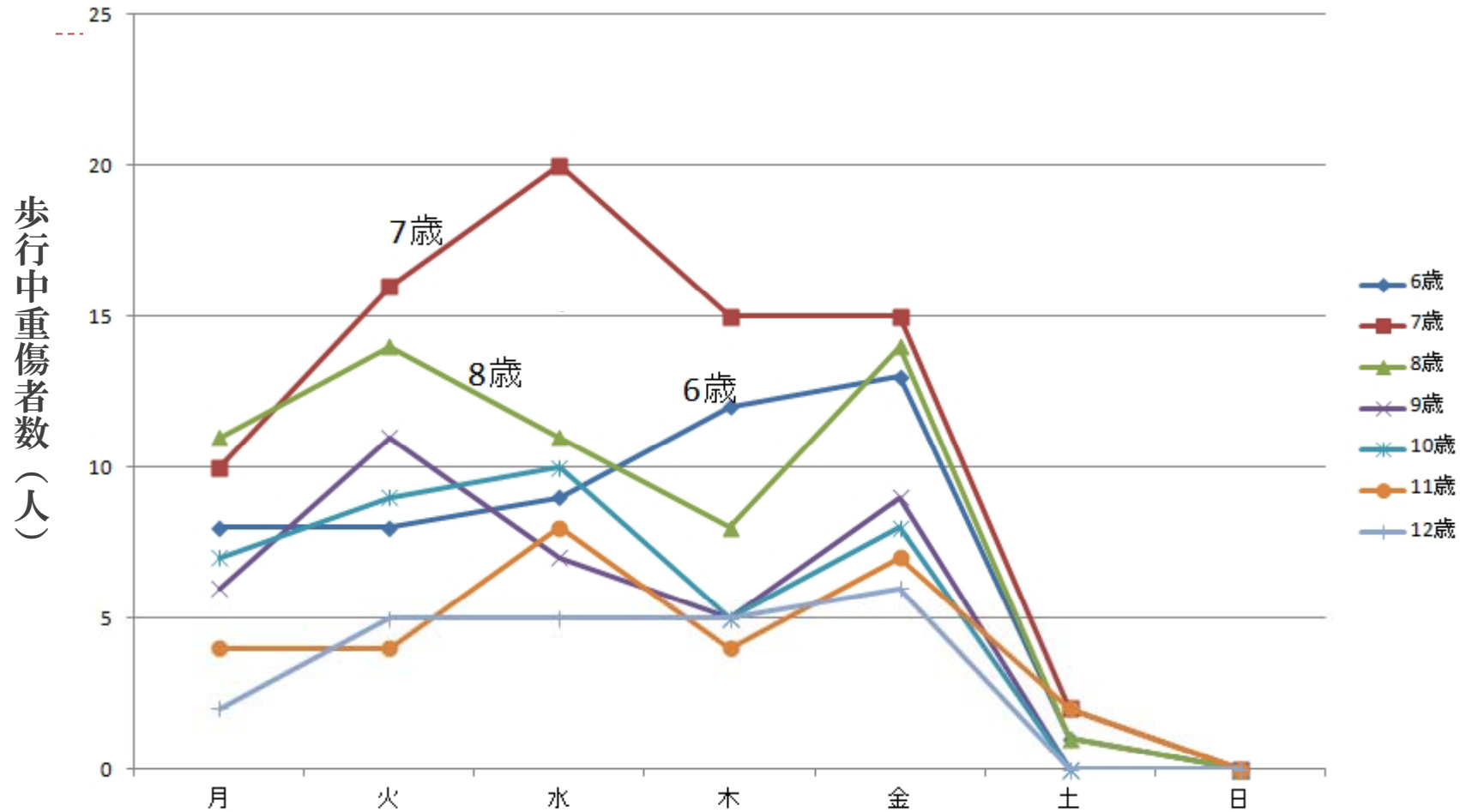
歩行中（登校・下校目的）の重傷者数は、6歳～8歳では4月～6月に多い。
また、夏休み終了後には6歳～8歳，10歳の重傷者数が増加する

月別変動（H22，自転車乗用中重傷者数，登校・下校目的）



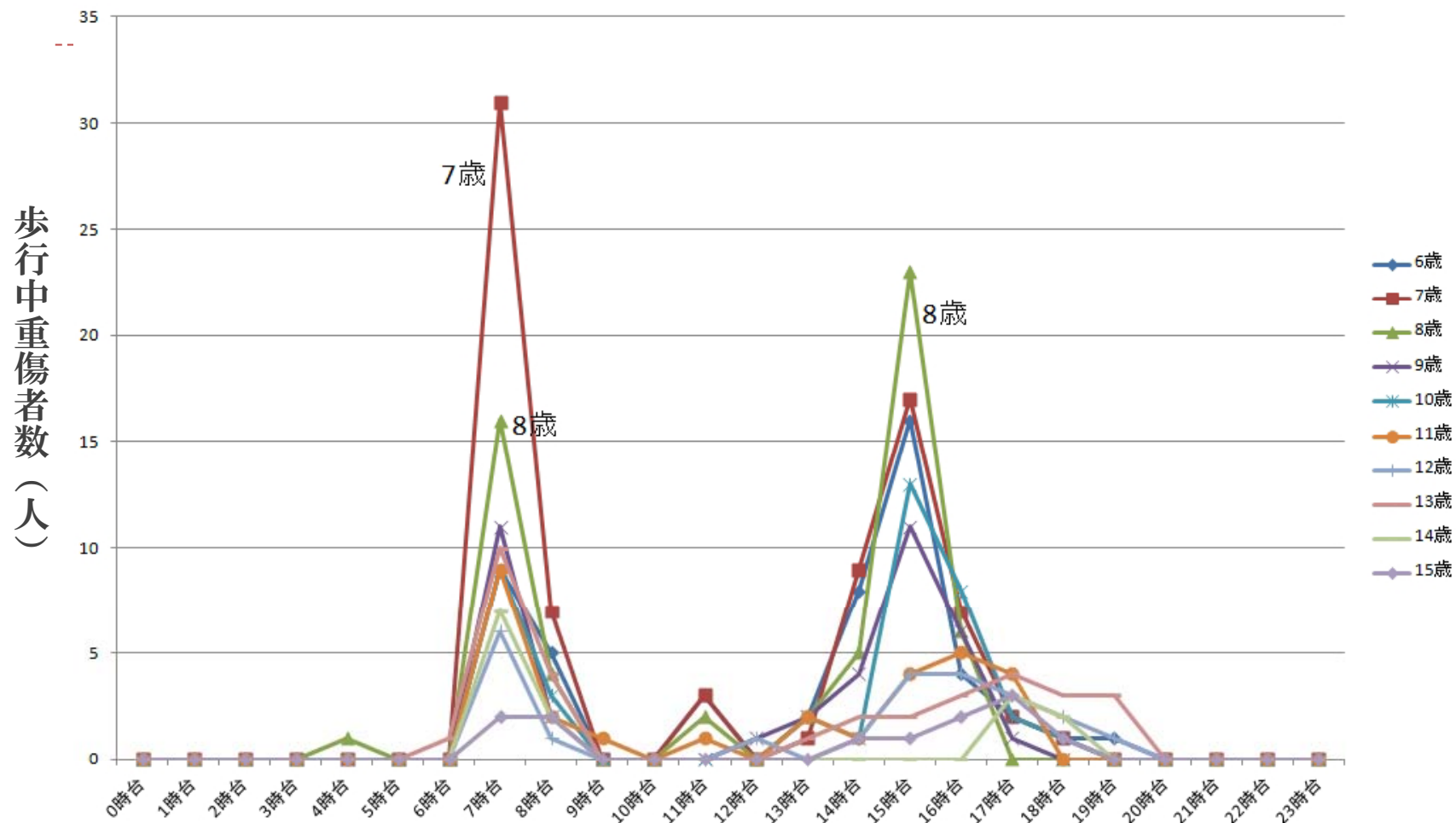
自転車乗用中（登校・下校目的）の重傷者数は，12歳～15歳では5月～6月に多い．また，夏休み終了後には12歳～13歳の重傷者数が増加する

曜日別変動（H22，歩行中重傷者数，登校・下校目的）



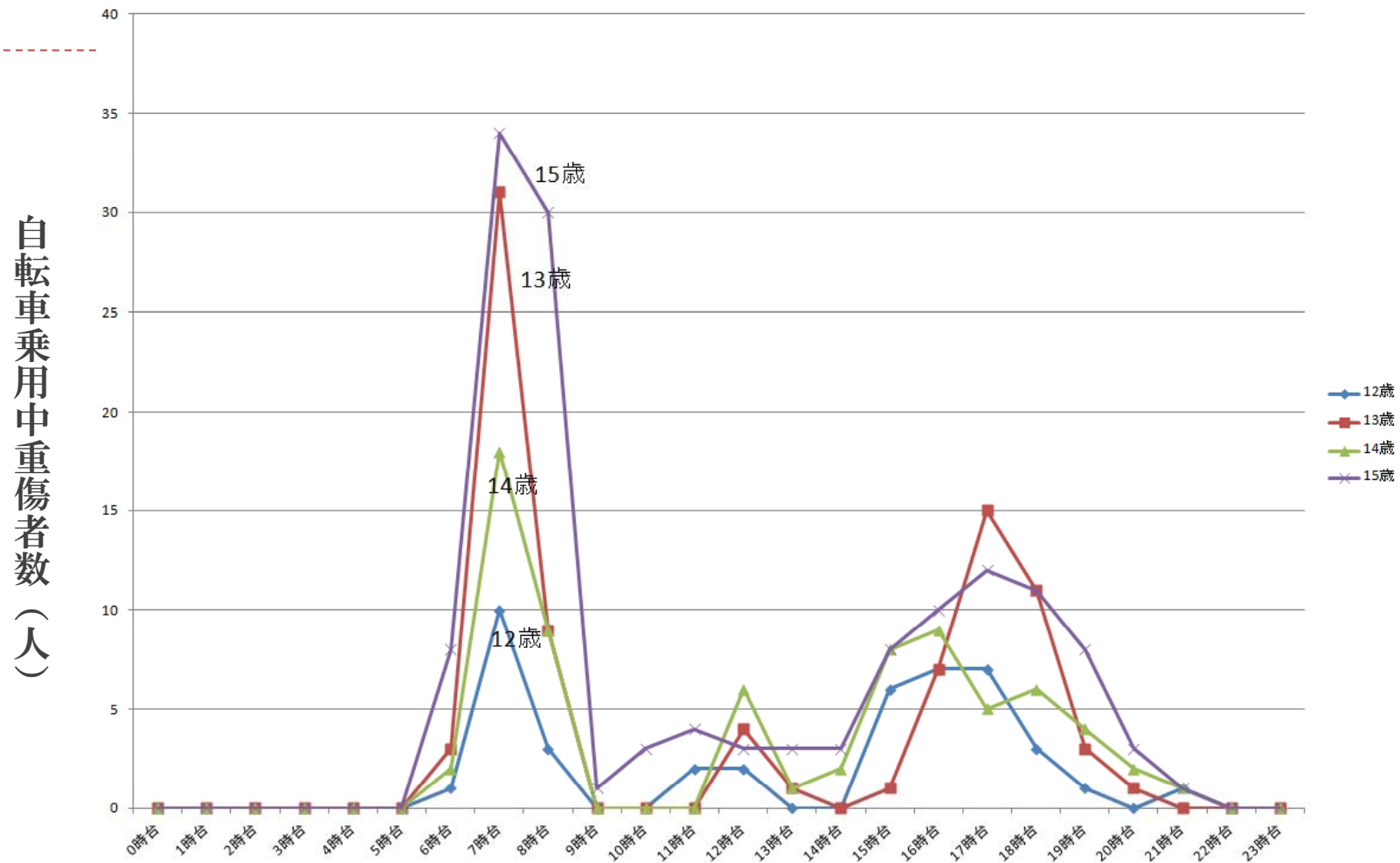
曜日別に見ると、重傷者数は月曜日に少なく、火曜日、水曜日、金曜日に多い。年齢別では、6歳～8歳の低学年層の重傷者数が多い。

時間別変動（H22，歩行中重傷者数，登校・下校目的）



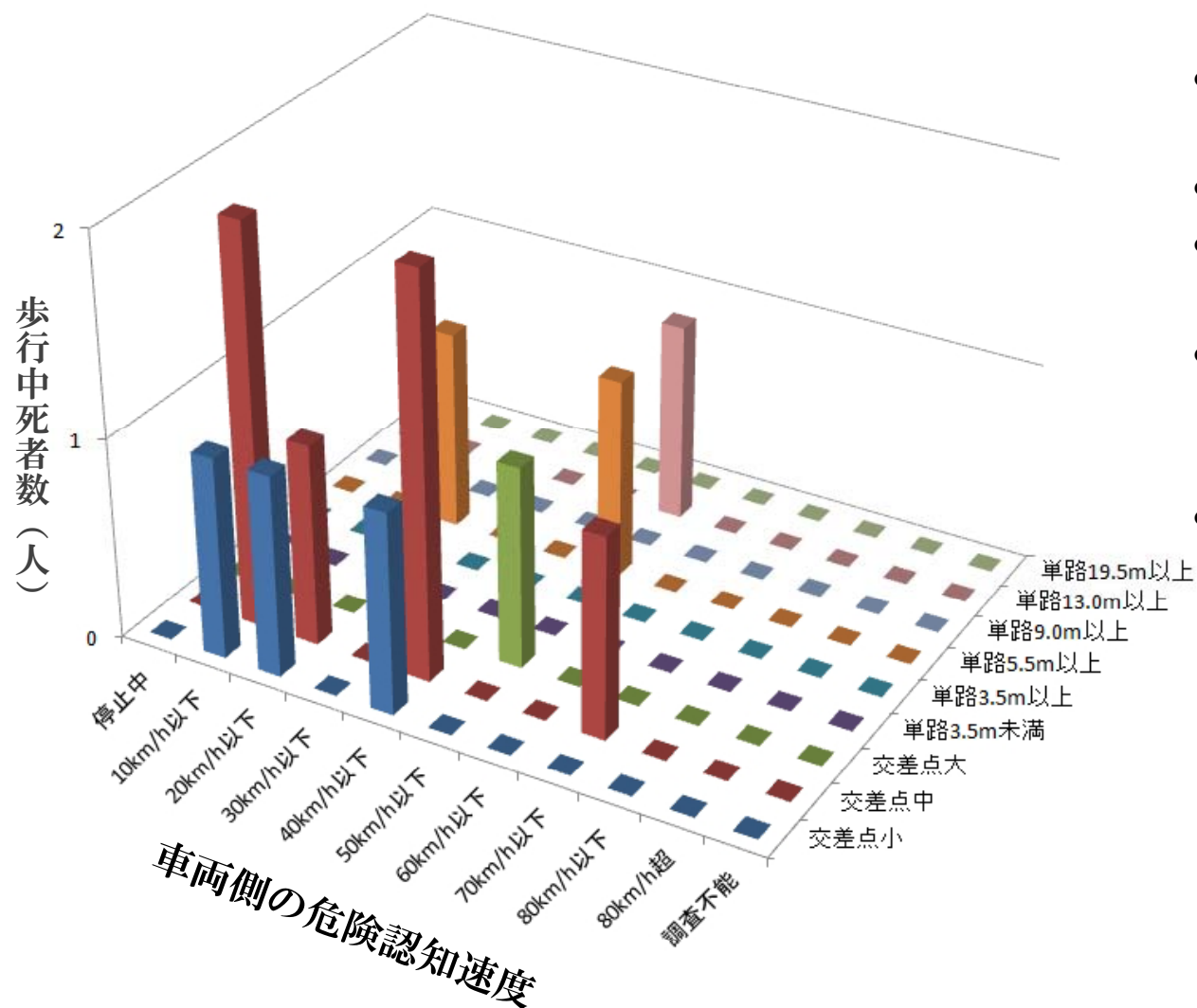
歩行中の重傷者は、7時台（登校時）と15時台（下校時）に集中している。登校時には7歳，8歳の重傷者数，下校時には8歳，7歳，6歳の重傷者数が多い。

時間別変動（H22，自転車乗用中重傷者数，登校・下校目的）



自転車乗用中の重傷者は、7時台（登校時）と16時～18時台（下校時）に集中している。年齢的には、15歳台，13歳台が多い。

危険認知速度・車道幅員別の歩行中死者数 (H22)



- 歩行者の年齢：15歳以下 (1当+2当)
- 通行目的：登校・下校
- 単路よりも交差点での死者が多い。
- 交差点の大きさで見ると中・小交差点での死者数が多い。
- 危険認知速度を見ると、60キロ台の事故も見受けられる。一方、危険認知速度が20キロ以下の低速でも死亡事故が発生している。